

製品安全性データシート (MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名：ボンリース離型剤（H）

1.2 会社情報

会社名：有限会社 京葉化成
住所：〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺 5-6-48
電話番号：047-444-0834
Fax 番号：047-444-0858
緊急時の連絡先（電話）：047-444-0834

1.3 推奨用途 FRP 成型時の型枠離型剤

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

物理化学的の危険性

可燃性固体 区分 1

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分 2
発がん性 区分 2
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）
区分 3（気道刺激性）

環境に対する有害性 分類できない

2.2 GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：
可燃性固体
皮膚刺激
発がんのおそれの疑い
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策] :

保護手袋および保護眼鏡、保護面を着用すること。
熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。—禁煙。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、又は適切なその他の機器を使用すること。
静電気的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器及び受器を接地、結合すること。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
ミスト/蒸気を吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
指定された保護具を使用すること。
火災の場合には適切な消火方法をとること。
皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管] : 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。

[廃棄] : 内容物/容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

2.3 重要危険有害性

この製品は、引火の可能性がある。また、皮膚刺激及び反復暴露により、発がん及び臓器（気道刺激性）の障害のおそれがある。

3. 組成及び成分情報

3.1 単一物質・混合物の区別 混合物

3.2 一般名または化学名 溶剤含有ワックス

3.3 成分情報

化学名または一般名	CAS 番号	官報公示整理番号	濃度または濃度範囲(wt%)
天然ワックス	—	8-414、8-421	20-21
合成ワックス	—	8-415	8-10
鉱物油 A	64742-82-1,93924-07-3	9-1702	24-26
鉱物油 B	64742-81-0,64741-77-1,8008-20-6	9-1702	42-44

3.4 GHS 分類に寄与する危険有害成分

鉱物油 A、鉱物油 B

3.5 製品の危険有害性に寄与しない微量成分

データなし

4. 応急措置

4.1 暴露経路による応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と石鹼で洗うこと。症状が
続く場合には、医師に連絡すること。
- 目に入った場合 : 清潔な綿棒等で固形物を取り除き、水で最低15分以上注意深く洗
うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、
医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。

4.2 予想される急性症状及び遅発性症状

情報なし

4.3 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚、保護マスク等の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

二酸化炭素、泡・粉末消火剤、乾燥砂、その他（ハロゲン消火剤）。

5.2 特有の危険有害性

燃焼または熱分解により炭素酸化物、その他有毒ガスが発生するおそれがある。

5.3 特有の消火方法

初期火災は、周囲の可燃物を取り除き空気を遮断する。
大規模火災は土砂で流出を止め、風上から消火剤を散布する。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も容器を十分に冷却する。

5.4 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮
膚への接触や吸入を避ける。

6.2 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

6.3 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

危険でなければ漏れを止める。

おがくず、ウエス、砂、紙等に吸着させ、空容器に回収する。

固化した場合はスクレーパ等で取り除き、その後砂等でよく拭き取る。

6.4 二次災害の防止策

取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

本製品は床にこぼすと滑りやすいので注意すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項：屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

周囲で火気、スパーク、高温機器等の使用は禁止。

取扱い後はよく手を洗うこと。

容器は使用後、必ず密栓すること。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

7.2 保管

技術的対策： 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明および換気の設備を設ける。

混触禁止物質： 酸化性物質、強酸類、アルカリ類、ハロゲン類

保管条件： 熱、火花、裸火のような着火源から離し保管する。

容器包装材料： 湿気を避けて密閉可能な容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない

8.2 許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本産業衛生学会（2009）最大許容濃度 3mg/m³（鉛油ミスト）

ACGIH TLV-TWA (2009) 5 mg/m³ (ミネラルオイル)

8.3 設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用する。

静電気放電に対する予防措置を講ずる。

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。

8.4 保護具

呼吸器の保護具： 高温での作業時に蒸気が発生する場合、必要に応じて保護マスク等を着用する。

手の保護具： 手に接触する恐れがある場合、耐油性保護手袋を着用する。
眼の保護具： 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具： 必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

8.5 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化学的性質の基本情報

外観	黄褐色ペースト
臭い	石油溶剤臭
融点	75°C
引火点	54.5°C (密閉式)
発火点	255°C
比重	0.81
溶解性	水：不溶

10. 安定性及び反応性

10.1 安定性

通常の保管条件下では安定。

10.2 危険有害反応可能性

自己反応性、爆発性なし。

10.3 避けるべき条件

高温、静電気、衝撃等。

10.4 混触危険物質

酸化性物質、強酸類、アルカリ類、ハロゲン類

10.5 危険有害な分解生成物

燃焼または熱分解により炭素酸化物、その他、有毒ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

11.1 製品の有害性情報

情報なし

11.2 成分の有害性情報

鉱物油 A

急性毒性： (経口) ラット LD₅₀ > 5,000 mg/kg

(経皮) ラット LD₅₀ > 5,000 mg/kg

生殖毒性： 動物において母体毒性がある投与量で、胎児毒性が生じる。出生率の低下はないと思われる。

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：

高濃度によって、頭痛、めまい感、恶心をもたらす中枢神経系の抑制を引き起こすことがある。また、呼吸器系に刺激を引き起こすことがある。

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：

雄のラットに腎臓障害を引き起こす。

吸引性呼吸器有害性 飲み込んだり嘔吐した時に肺への吸引により、致命的な化学物質起因の肺炎を引き起こすことがある。

鉱物油B

急性毒性： (経口) ラット LD₅₀ > 5,000 mg/kg

(経皮) ウサギ LD₅₀ > 2,000 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性： ヒトで皮膚への接触により刺激性が認められた。

発がん性： ACGIH でケロセンが A3 に分類されている。

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：

ヒト暴露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められた。マウスを用いた吸入暴露試験で気道刺激性が認められた。

吸引性呼吸器有害性 ヒトで誤嚥により化学性肺炎を起こす。

12. 環境影響情報

12.1 製品の環境影響情報 情報なし

12.2 成分の環境影響情報

鉱物油 A

生態毒性 魚類 LC₅₀ (時間不明) ≤ 100 mg/L

甲殻類 LC₅₀ (時間不明) ≤ 100 mg/L

藻類 EC₅₀ (時間不明) ≤ 10 mg/L

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2 汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

14.1 國際規制

国連番号： 3175

品名： その他の固体（引火性を有する液体を含むもの）

国連分類： 4.1

副次危険： 該当しない

容器等級： II

海洋汚染物質： 該当しない

14.2 国内規制

陸上規制情報：該当しない

航空規制情報：航空法の規定に従う。

海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。

14.3 緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号：133

14.4 特別の安全対策：容器に衝撃を加えたり、引きずる等の乱暴な取扱いをせず、転倒、落下、破損しないように積載する。
輸送及び保管に際して、上記の一般的な注意に従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（鉱油）（0.1 重量%以上を含有する製剤その他のもの）
航空法	可燃性物質類（その他の固体（引火性を有する液体を含むもの））
船舶安全法	可燃性物質類（その他の固体（引火性を有する液体を含むもの））
港則法	可燃性物質類（その他の固体（引火性を有する液体を含むもの））

16. その他の情報

参考文献： 有限会社 京葉化成提供資料

【注意】本 MSDS は、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JISZ7252:2009 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 MSDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。